

## 日本社会福祉系学会連合からの報告

日本社会福祉系学会連合  
会長 金子 光一(東洋大学)

日本社会福祉系学会連合(以下、本連合)は、2024年5月26日の総会から新しい体制となりました。本連合は、次の4つの事業を大きな柱として活動しています。

- (1) 加盟学会の全国大会や機関誌に関する情報の共有
- (2) 災害福祉に関する図書、報告書、論文、関連アーカイブの収集
- (3) 加盟学会への補助金支給(制度)
- (4) 日本学術会議「価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会」への協力

(1)は、社会福祉系学会の交流と連携を通じた活性化を目指すもので、設立時から行われていました。また、情報共有活動の一環で、加盟学会の会員の皆様にご協力頂いたアンケート調査に基づいたワークショップ(「Withコロナ時代における研究に関する状況とニーズと学会活動のあり方についてのワークショップ」)を2024年11月30日にオンラインで開催する予定です。

(2)は2012年より開始されましたが、その背景には2011年3月11日の東日本大震災があります。大きな震災の被災者の方々のために、本連合ができることを議論した結果、「災害福祉アーカイブ」を立ち上げ、「災害福祉について学び合うことが使命である」という結論に至り、取り組みを始めた事業です。

(3)は、加盟学会が開催するシンポジウム、講演会、研究会等の開催で要する経費の一部を補助する制度です。コロナ禍で自粛が余儀なくされていた対面開催が徐々に実施できるようになり、この制度の活用を希望する加盟学会が増えています。

(4)は(1)同様、設立時から行われていたものですが、2024年度「社会福祉学分科会」から「価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会」という新しい分科会となりました。これまでの「社会福祉学分科会」は主に社会福祉学を専門とする研究者によって構成されていましたが、新しい分科会では関連分野の研究者も参画し、より学際的に最先端の学術研究を目指して活動しています。本年度は、その分科会が開催するシンポジウム(2025年1月11日開催予定)の支援を行う予定です。

本連合の中核組織である本学会は、他の加盟学会と連携し、新たな価値に基づいた実践の知を社会に発信していく責務があります。

これからもお力添え賜りたくお願い申し上げます。